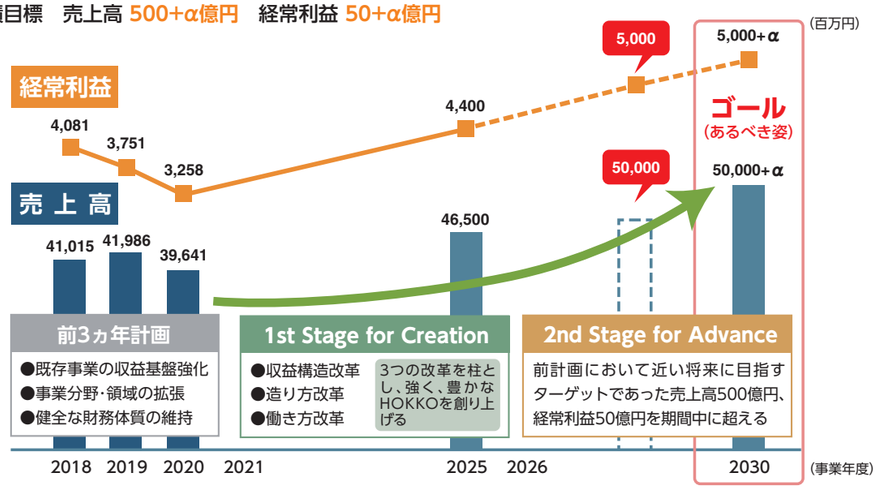
経営計画

当社グループは、2030年度をゴールとする長期経営計画「HOKKO Value Up Plan 2030」において、将来あるべき姿に向かって持続可能な成長を成し遂げるとともに、社会課題の解決に積極的に取り組みます。

長期経営計画　HOKKO Value Up Plan 2030 未来は創造できる　～強く、豊かなHOKKOへ～

持続的成長を成し遂げるため必要な投資を進めます。その効果実現には10年程度を要することから、計画のゴールを2030年度としました。最初の5年間を1st Stageとし、業務改革の推進により基盤強化を図り、次の5年間の2nd Stageで、あるべき姿に到達することを目指します。また、当社グループの持続的な成長とサステナブルな社会の実現に寄与するため、SDGsの達成に取り組みます。

■長期業績目標　売上高 500+α億円　経常利益 50+α億円



中期経営計画　―1st Stage for Creation―（2021～2025事業年度）

1.基本方針

『収益構造改革』『造り方改革』『働き方改革』の3つの改革を推進。企業価値向上と社会課題の解決に向け、ムリ、ムダ、ムラを排除し、筋肉質で骨太な企業体質を造り上げ、強く、豊かなHOKKOを実現します。

2.経営目標

2nd Stage期間中に達成を目指す売上高500億円、経常利益50億円を見据え、以下の業績目標、KPIを設定し、目標達成に取り組みます。

業績目標	2020年度実績	2025年度計画
売上高(百万円)	39,641	46,500
経常利益(百万円)	3,258	4,400

KPI			2020年度実績	2025年度計画
収益構造改革	収益性	売上高経常利益率	8.2%	9%以上
		ROE	8.5%	8%以上
	財務健全性	自己資本比率	63.0%	60%以上を維持
造り方改革	農薬事業	製造原価(2020年度実績生産物量基準)	—	2021～2025年度累計800百万円削減*
	ファインケミカル事業	製造能力(2020年度実績出来高基準)	—	2025年度に20%向上
働き方改革	売上高販管費比率(委託研究費を除く)		2018～2020年度の平均値18.4%	17%以下

*各年度の単位物量あたりの原価に2020年度の物量をかけて算出した製造原価と、2020年度の製造原価実績との差額の総計

当社グループの主要3事業

当社は、野村鉱業株式会社の製薬部門が独立して、1950年2月27日に創立しました。「グリニャール反応」をコア技術に、農薬・ファインケミカルの2つの事業を柱として発展。2019年、当社グループは繊維資材事業に進出し、進化を続けています。

農薬事業

野村鉱業(株)において培われた技術を受け継ぎ、当社製品の第1号である「撒粉ボルドー」(銅殺菌剤)を製造、販売したのが当社の始まりです。また、有機合成反応技術「グリニャール反応」を駆使して、稲のいもち病に高い効果を発揮する農薬(殺菌剤)を開発し、製造を開始しました。

優れた技術と開発力

1965年には、奈良県の春日大社の土壌から発見された微生物が生産する抗生物質「カスガマイシン」を農薬製品として開発しました。現在では、世界40ヵ国で農薬登録を取得しています。2013年には、水稲に対する高い安全性を示し、稲の主要雑草ノビエに対する高い効果と優れた残効性を示す「イプフェンカルバゾン」を開発しました。国内で好評を博し、海外では2014年に韓国、その後、ドミニカ共和国、トルコで登録を取得しました。現在、アジア諸国での登録に向け試験を実施しています。

また、優れた製剤技術には定評があり、1haの水田でも中に入らずに散布が可能な拡散型製剤「楽粒®(らくりゅう)」を開発し、イプフェンカルバゾンを含有する「サキガケ®楽粒®」を2022年に上市しました。今後も、「楽粒®」製剤製品のラインアップにより農業の省力化に貢献します。

ファインケミカル事業

当社は、わが国で最初に「グリニャール反応」による有機金属化合物の工業生産を成功させました。この得意とする反応技術を活かして、農薬以外の分野でも、社会・産業に貢献できる化学製品を提供できないだろうか、という想いから始まったのが、現在の主力事業の一つ「ファインケミカル事業」です。

幅広い分野へ製品を提供

「グリニャール反応」技術を活かし、事業の2本目の柱に発展させるため、ファインケミカル事業が独立した一部門として歩み出したのは、塩化ビニール安定剤原料の製造を始めた1969年からです。

1970年代後半からは合成香料原料、医薬原料、1980年代には主力製品であるホスフィン系有機触媒トリフェニルホスフィン(TPP)の製造を開始。その後、機能性高分子原料などを手がけ、2000年代には自動車排ガス浄化触媒用原料を発売しました。現在は、樹脂、電子材料、医農薬分野などに製品を提供しています。

2002年には、ファインケミカル製品の生産拠点として中国江蘇省に張家港北興化工有限公司(子会社)を設立しました。

繊維資材事業

2019年にグループ会社となった村田長株式会社は、1885年創業の老舗企業です。同社は呉服、絹製品を扱う繊維問屋として発足しましたが、近年は繊維資材の専門商社へとビジネスモデルを転換、商社でありながら顧客ニーズに即した商品企画、原料からの素材開発、独自の付帯加工を行い、多機能で高機能な商品を開発・提供できるのが大きな特徴です。その商品は自動車・家具などの産業用繊維資材、鞄・靴・衣料・介護・防災関連などの消費者用繊維資材で幅広く活用されています。これからも、「リサイクル繊維」を活用した循環型の商品開発を強化し、地球環境と天然資源を守り、持続可能で快適な社会づくりに貢献していきます。

グループシナジー効果の発揮

当社と村田長(株)は、両社のスキル・ノウハウ・ネットワークを融合することでシナジー効果を発揮し、グループとして事業分野・領域の拡大と付加価値の創造を図っています。

また村田長(株)の上海事務所は、中国製造拠点の開拓や品質管理面で重要な役割を果たすとともに、北興化学工業グループにおける海外ビジネス拠点の一つとしても連携を強化しています。

中期経営計画の進捗状況

当社グループは、さらなる企業価値向上、また、2nd StageにおけるValue Upを確実にするため、1st Stageである中期経営計画の達成に経営資源を集中し、目標達成を目指します。

1st Stage for Creation 基本方針		2022年度の主な取り組み実績	2023年度の主な取り組み
収益構造改革	【成長・財務基盤強化】 安定的な売上高と収益額を確保する。	《農薬事業》 ●高拡散性粒剤の投入および拡販に向けた普及基盤の構築 ●新剤推進による園芸シェア向上 ●イプフェンカルバゾンの登録国拡大と普及推進 《ファインケミカル事業》 ●新規受託案件の拡大 ●原材料価格高騰に対する販売価格の改定 《繊維資材事業》 ●再生繊維素材の開発・供給体制の構築	《農薬事業》 ●水稲除草剤市場における高拡散性粒剤の普及拡販、普及基盤の確立 ●園芸新剤の拡販によるシェア向上 ●イプフェンカルバゾンの登録国拡大と普及推進、東南アジア普及拠点の検討 《ファインケミカル事業》 ●自社技術の拡充による受託の拡大 ●価格是正(製品価値の再評価) ●海外営業拠点の充実に向けた検討 《繊維資材事業》 ●再生繊維素材の本格供給開始
造り方改革	【高効率化・省力化・環境対策】 高品質・高付加価値な製品を市場に提供する。	《農薬事業》 ●新除草粒剤工場の建設(2022年10月生産開始・12月本格稼働) 《ファインケミカル事業》 ●既存工場の能力アップ 《共通》 ●中長期設備投資計画の検討 ●カーボンニュートラルへの取り組み方針の検討	《農薬事業》 ●新除草粒剤工場の本格稼働、投資効果の早期実現 ●高拡散性粒剤の品目強化(処方最適化・新規混合剤の検討) 《ファインケミカル事業》 ●岡山工場ファインケミカル専用化計画の具体化 ●新技術開拓プロジェクトの推進 《共通》 ●カーボンニュートラルへの取り組み方針に基づく対応の検討、省エネの推進 ●中長期設備投資計画対象事案の具体化
働き方改革	【業務効率化・人材育成】 全ての従業員がその個性と能力を十分に発揮する。	《共通》 ●新しい勤務体制の検討 ●テレワーク、Web研修、Web説明会など、各課題への取り組みに向けたデジタル化対応	《共通》 ●教育研修の充実・強化(管理職層向けマネジメント研修、工場従業員向け研修)、海外展開要員の育成 ●就業・採用関連のデジタル化対応 ●労働安全衛生法令等改正対応、事故未然防止策への取り組み、リスクアセスメントの実効性向上

TOPICS

北海道工場・除草粒剤工場本格稼働(農薬事業)

当社・北海道工場では「高効率化・省力化・環境対策」をコンセプトとし、新工場(除草粒剤工場)の建設を進めてきましたが、2022年11月7日の竣工式を経て、12月に本格稼働しました。当工場は原料の投入や製品の包装・積み込みなどの自動化設備を配置するとともに、脱臭能力を強化した洗浄塔など環境にも配慮した設備を備えています。また、当社が開発した拡散型製剤“楽粒®”などの付加価値の高い新製剤を生産し、市場に提供することで、農家におけるトータル生産コスト低減をサポートしていきます。

●新工場の概要

所在地	北海道滝川市北滝の川1470番地(北海道工場内)
建築面積	約2,965m²
主要新築建屋	鉄骨造り4階建て、延床面積約5,164m²
主要生産設備	造粒ライン、包装ライン、製品倉庫など付帯設備
設備投資額	約32億円(建物、設備)
資金調達	自己資金

岡山工場生産能力増強(ファインケミカル事業)

ファインケミカル事業では、中期経営計画において2025年度に2020年度比20%の生産能力向上を目指しています。2022年度は、製造設備の増強により、KrFレジスト原料の生産能力が概ね1.2倍に向上しました。また、2019年11月に竣工した岡山工場合成第9工場に反応缶3缶を増設し、樹脂分野の生産能力の向上を図りました。今後とも、新プラント建設の検討、既存設備のスクラップ&ビルドも含め、需要動向を見定めながら、能力増強に取り組んでいきます。

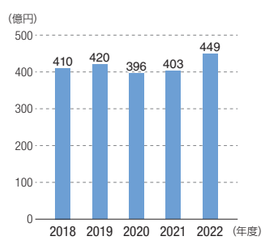
計画と実績

(単位:百万円)

2025年度計画				2022年度		2023年度	
				実績	進捗率*	業績予想	進捗率*
業績目標		売上高	46,500	44,864	96%	47,000	101%
		経常利益	4,400	5,905	134%	5,300	120%
収益構造改革	収益性	売上高経常利益率	9%以上	13.2%	達成		
		ROE	8%以上	11.6%	達成		
	財務健全性	自己資本比率	60%以上を維持	66.4%	達成		

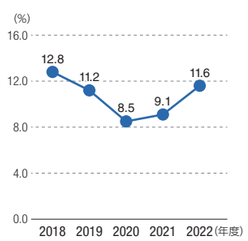
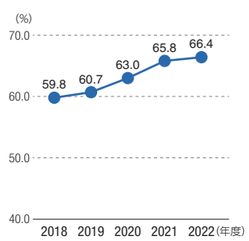
*進捗率は2025年度計画比

●売上高



●経常利益/売上高経常利益率

●ROE



●自己資本比率